

Ndasuna

んだすな 2008. NOVEMBER 11

CONTENTS(2008.NOVEMBER)

- ◇2～3 地元への定住をサポートする
三種町ふるさと回帰支援センター
～行政とNPO 法人の協働～
- ◇4～5 NPO 等のための資金調達の
仕組みづくりが進められています
- ◇5 福祉のマメ知識⑤
- ◇6 「思わず手にとるチラシの作り方講座」
ポイント紹介
- ◇6～9 情報あらかると
- ◇10 ほっと地域にゆーす

大館市内の教育機関が キャリア教育で連携

10月25日26日に大館圏域産業祭において、産業教育展「ワンダフルジョブワールド in 大館」が開催されました。秋田職業能力開発短大、大館市内の高校や専門学校の計7校が実行委員会をつくり、ものづくりの楽しさ、大切さ及び職業意識を育てるための一助として実施されました。ものづくりランド・たべものランド・ファッションランド・発明工夫ランド・仕事発見ランド・アトラクションランド・展示コーナーの空間が楽しめました。



地元への定住をサポートする 三種町ふるさと回帰支援センター

～行政と NPO 法人の協働～



「三種町ふるさと回帰支援センター」※1は、平成 19 年 8 月に町が設置し、NPO と役割分担しながら定住の促進や相談窓口の拠点として情報発信しています。今回は、三種町と NPO 法人一里塚の取り組みについてご紹介します。



行政担当者の真川信一さん(三種町まちづくり課企画振興係)に伺いました。

○NPO との協働内容について

町の定住対策事業全般にわたっていますが、具体的には以下の 4 点があげられます。

- ・U ターン希望者への住宅(空き家)情報の提供
- ・ふるさと体験ツアーの実施
- ・東京ふるさと会等での U ターン相談会の開催
- ・特産品等町全体の PR 活動

○協働することになった経緯について

平成 19 年度から国が「頑張る地方応援プログラム」を立ち上げ、町として定住対策を柱に事業を展開することになりました。その際、NPO 法人一里塚(平成 18 年 2 月に設立)の活動目的が、町の事業と合致したことが本格的な協働の契機となりました。それは、何よりお互いに「情報発信による魅力ある地域づくり」という共通の目標が根底にあったためです。

○行政と NPO の役割について

同じ目的に向けて、「行政ができるものは町が、民間ができるものは NPO が」を基本的なスタンスに、それぞれが補完的な役割を担うように努めています。例えば事業内容によって、町は補助金を NPO に拠出し、NPO がその運営を行うスタイルをとる等、柔軟に対応してい

ます。

○協働による成果について

U ターンによる定住人口の増加を目標としていますが、すぐに結果を出せるようなものではなく、根気強く地道な取り組みが必要と考えています。しかし、NPO との協働によって、行政では目の行き届きにくい所もカバーできるようになり、よりきめ細かい対応が可能となりました。徐々にではありますが成果が現れはじめてきています。何よりも事業展開に共通意識を持って対処できることを心強く感じています。

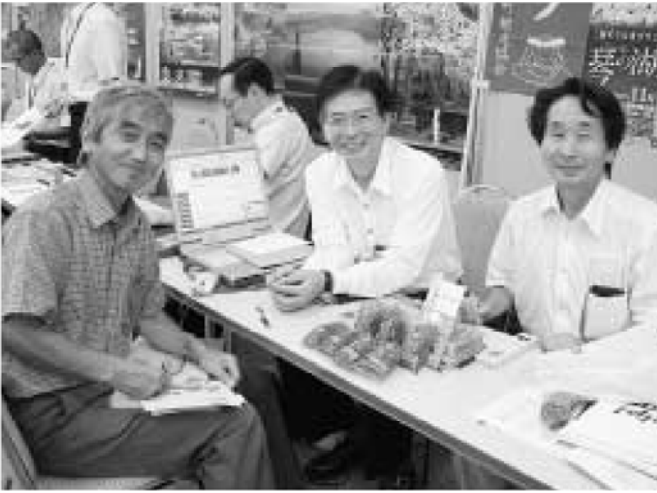
○課題について

「官民協働」は現在 NPO 法人一里塚との連携が主体となっていますが、今後はより多くの「町民」との協働が必要と感じています。事業の展開には自治会や婦人会等、地域の組織・団体の全町的な啓発と理解が不可欠と考えており、その取り組みと NPO 等の会員の拡大が課題となっています。

○気がついたことや感じたこと

NPO 法人一里塚との協働で感じるのは、理事長はじめ会員の熱意と発想の豊かさです。

行政マンはとかく「役所仕事」な狭い考え方になりがちですが、NPO ならではの自由な発想と行動力には時々舌を巻かせられます。



ふるさと回帰フェア相談コーナーでも地域の特産物をPRしています。写真右側が理事長の清水さん



東京で行われたふるさと回帰(Uターン)相談会には100人の参加がありました

NPO 法人一里塚は、三種町をエリアに少子高齢化や教育、福祉、環境、産業など地域のさまざまな課題・問題を住民自らの責任で解決していこうと、有志が立ち上がり生まれました。センター運営に大きな意欲で取り組んでいる理事長の清水昭徳さんにお話を伺いました。

◇協働することになった経緯について

当法人は、「過疎・少子化する田舎であっても安心して快適に暮らせる、魅力あふれるまち」をめざして平成18年に法人化しました。同じ年に、全国規模で活動している認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センター※2 の団体会員となり、町の情報を発信するため、東京で行われている「ふるさと回帰フェア」への参加や情報誌へのイベント掲載を行いました。また、県外にある町のふるさと会と連携し、町を活性化させるための事業を積極的に行うなどしたことが協働へとつながりました。

◇協働による成果について

回帰支援事業は、町・NPO・町民が理解して受け入れていかないと無理なことで、それぞれが役割分担をして、自覚を持って作業を行うことが大切です。現在、町とNPO は役割分担しながら実施し、町民にも理解を深めてもらえるように努めています。

また、事業の成果として感じることは、この事業が地域再生のよい勉強であり、やがて最高の成果につなが

るということです。町に人を連れてくることにより、参加者から率直な話を聞け、新たなふるさとの良さに気づくことができるからです。

◇課題について

資金調達が課題となっています。現在、一部は町や国の補助金を活用していますが、すべてを賄えているわけではありません。そのためにも交流の場を広げ、地元専業農家の指導を受けながら農業体験ツアーの充実を図るとともに、加工食品を開発して県外へ売り込んで行くことを考えています。

◇今後の活動について

県内外に広がっている交流の場を活かしながら、回帰支援事業の充実、結婚相談所の開設や起業に関する事業を行っていく予定です。

※1 センターの主な活動内容として①ふるさとへの定住に関する情報収集と発信②田舎暮らし希望者への情報提供とサポート③長期及び短期滞在型のふるさと体験事業への支援④定住者向け空き家情報バンクの整備⑤町民への回帰事業の啓蒙と意識啓発等を行っています。

※2 団塊世代を含む中高年の IU ターンをサポートし、活性化をはかっています。

NPO 等のための資金調達の仕組みづくりが進められています

現在、地域の課題解決のために活動するNPOやボランティア団体を、資金面で市民やNPO・企業・行政等が共に支え合う新たな資金調達のしくみ「(仮称)秋田県地域づくりファンド」の設置準備が、県内のNPOや行政により進められています。

〈これまでの流れ〉

平成19年11月に「市民活動の資金調達についてのアンケート調査」を実施。結果から助成金を中心にしたファンドの創設に向け、NPOと行政からなる「資金調達世話人会」を経て、NPO法人の設立準備のため「(仮称)秋田県NPOサポートファンド設立準備委員会」が開催されました。その後、名称を「(仮称)秋田県地域づくりファンド設立準備委員会」とし、「(仮称)秋田県地域づくりファンド」の設置要綱、運用規定、運営委員会規定、選考委員会規定、選考基準、募集要項等についての検討と、新たなファンドを運営する法人の「(仮称)特定非営利活動法人秋田県地域づくりファンド」の組織案、定款、理事名簿、収支予算、事業計画等について話し合いが重ねられてきました。10月27日には、新理事予定者の顔合わせ会が行われました。

「(仮称)秋田県地域づくりファンド」とは

○ファンド設立の背景

地域課題の解決などの公益を担わんとするNPO等による市民活動の活動領域は広がり、多くのニーズに応え、主体的な役割を果たすために「市民活動団体の基盤の確立」が急務

市民活動の広がりに対して、立ち上げ資金や資金繰りを支援する金融システムが整備されていないことや、既存の金融機関の融資では、市民活動団体への融資が困難なことなど

市民活動団体(NPO等)のための新たな資金調達のしくみづくりが必要

○ファンドの目的

地域の課題解決をめざし、地域をより豊かにすること

○運営について

「(仮称)特定非営利活動法人秋田県地域づくりファンド」により運営

このファンドは、市民等の善意に基づく寄付金等を助成の原資とします。

○ファンドの種類について

本ファンド	冠ファンド	分野指定ファンド
用途を一任された寄付を様々な活動に助成	継続的な資金提供で寄付者等の名称等を冠した寄付を個別ファンドごとに助成対象を決定	寄付者等の意思を反映させることができるように分野別に受けた寄付を分野別に助成

※助成対象となる団体は、秋田県内に拠点を置き、地域課題を解決し、地域社会をより豊かなものにしようとする活動を行うNPO等

〈今後について〉

今後は、再検討議案である予算書や事業計画等を検討して、運営母体であるNPO法人設立を目指すとともに、NPO・企業・市民の皆さんにファンドへの理解を図るための活動を行っていきます。

◎秋田県市民情報ネット内をご覧ください!

支援・施策情報「新たな資金環境」で進捗状況を随時アップしています。

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>

「ファンド講演会」に出席して

9月7日、遊学舎において、「ファンド講演会」が(仮称)秋田県地域づくりファンド設立準備委員会の主催で開催されました。昨年の夏以来、ファンド設立の準備委員会に所属していましたので、日頃の勉強不足を補おうという思いで参加しました。

午前の勉強会では、準備委員からファンドの目的等の説明があり、参加者からは助成金制度だけではなく、お金を借りて責任をもって市民活動を行うためにも、将来的には融資制度も行った方がよい等活発に意見交換を行いました。

午後からは、新潟コミュニティ・バンク事務局長長崎忍氏による講演会が行われました。新潟コミュニティ・バンクは、地域の課題や新たなコミュニティの創造に取り組んでいる公益性のある活動事業に対して融資を行っています。この試みとして全国ではさまざまなバンクが融資を行っていて、行政主導の市民活動支援から、市民自らの資金流通の市場づくりが始まっており「お金の地産地消」と呼ばれています。

講演の後で、「ファンドが描く地域の未来」をテーマに、ワークショップが行われました。ファンドではこんなことが出来る、地域が協働により相乗効果が出る、ビジネスも元気になる等明るい意見が出た反面、果たしてお金が集まるのかとの現実的な意見も出て、参加者一同わきあいあいとディスカッションに花を咲かせました。

今年度までは、秋田県の「ボランティア資金」等で、NPO が補助金をいただき活動を行ってきたわけですが、民間人が、自分たちでお金を集め自分たちにお金を助成することは画期的なことです。このファンド設立を契機に、地域の各組織が協力連携しながら、明るく安全で豊かなまちを維持出来るようにしていきたいものです。

(特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センター 田畑 薫)



福祉のマメ知識⑤ このマーク知っていますか？

マタニティマーク

このマークは、妊産婦にやさしい環境づくりを進めるために厚生労働省がさだめたものです。

妊娠中、特に初期は、赤ちゃんの成長はもちろん、お母さんの健康を維持するためのとても大切な時期です。しかし外見からは、妊婦であるかどうか判断しにくい場合や、「つらい

症状」がある場合もあります。もしも、あなたの住んでいる街や職場などで、このマークを付けているお母さんを見かけたら、皆さんからの思いやりある気遣いをお願いいたします。

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局母子保健課



「思わず手にとるチラシの作り方講座」ポイント紹介

「思わず手にとるチラシの作り方講座」が、10月1日北部男女共同参画センターにて開催されました。講師は、「行列ができる講座」で話題の平均応募倍率3.3倍のカリスマプランナー牟田静香さん(特定非営利活動法人男女共同参画おおた理事長)で、ワードで作るチラシを実習しました。今回はパソコンの使い方がメインでしたが、何よりも大切なのは企画の立て方ということで、その一部をご紹介します。

「企画を立てる」「チラシをつくる」ポイント

○ターゲットをしばり、リサーチする

牟田さんは、毎日雑誌をチェックして、言葉・フォント・タイトルなどを確認するそうです。例えば、「心」は雑誌によって「ココロ」や「こころ」と表現しています。ターゲットに響くタイトルやキャッチフレーズを常にリサーチする姿勢が大切です。

○タイトルはゴールの見えるもの

企画段階で、ターゲットのニーズを把握して、参加者が悩んでいることが解決できるものを講座にします。そのうえで、その講座に参加すると、自分にとって何ができるのかが描けるようなタイトルにします。例えば、「ココロを軽くする女性学講座」や「『冬のソナタ』で始まる韓国語講座」

○イラストは中身がわかるもの

ターゲットに響くイラストを準備します。

○手にとってもらえるレイアウトを工夫する
縦置きチラシの場合、タイトルは上3分の1に持つと効果的です。

○フォントやデザインを工夫し、バランスの取れたチラシにする

タイトルは講座内容のイメージとあったフォントを選択します。タイトルの後にリード文を入れ、どういう講座かターゲットに響くような文章にします。最高でも5行まで。フォント種類の多用は禁物で、イメージ通りのフォント選びを心がけましょう。読ませどころは明朝体がお勧めです。



情報あらかると

イベント

○大館市○

男女共同参画推進事業

ぱぱっと手づくりエコおもちゃ展

日時：平成20年11月22日(土)11:00~16:00

会場：イオンスーパーセンター大館店(大館市字大田面)

内容：牛乳パックやペットボトルなどを使った子ども向けのおもちゃの展示と体験。

問 秋田県北部男女共同参画センター(主催)

TEL.0186-49-8552

○大館市○

児童虐待とDVを考える集い

日時：平成20年11月30日(日)13:00~16:00

会場：秋田看護福祉大学 大教場(大館市清水二丁目)

内容：基調講演「子どもや女性を暴力から守るため、一人ひとりができること」講師は田島裕二氏(秋田地方司法局大館支局長)、シンポジウム「児童虐待・DV関係機関の取り組み」

参加費：無料

主催：大館市子ども・家庭支援ネットワーク

問 秋田県北部男女共同参画センター

TEL.0186-49-8552

○八峰町○

あきた白神を楽しむモニターツアー
白神の初冬 八森ハタハタを味わう

日時：平成 20 年 12 月 6 日(土)～7 日(日)1 泊 2 日
会場：八峰町本館集落、あきた白神体験センター
内容：ソバ打ち体験、ハタハタ漁見学、トレッキング等
参加対象者：20 歳以上の大人(20 名定員になり次第締切)
参加費：12,800 円(1 泊 4 食、体験料、保険料含む)
申込締切：平成 20 年 11 月 28 日(金)
主催：おもしろ人倶楽部

問 申込：あきた白神体験センター TEL.0185-77-4455
※この事業は山本地域振興局の地域発案型グリーン・ツーリズム推進事業によるものです。

○能代市○

子どもの芸術体験広場 学習会
救急救命講習

日時：平成 20 年 12 月 6 日(土)19:00～21:00
会場：働く婦人の家(能代市中央公民館そば)
内容：幼児と乳児の人形を使って、人工呼吸の仕方をおぼえよう! AED の使い方をおぼえよう!
定員：大人 30 名(定員になり次第締切)
参加費：無料 ※修了証は発行しません

※託児あり(要予約・無料)
問 申込：子ども芸術体験広場実行委員会(主催)
TEL&FAX.0185-54-5877(能代おやこ劇場内)
※平成 20 年度能代市市民まちづくり活動支援事業をうけています。

○秋田市○

「ストップ・ザ・温暖化あきた県民会議」設立 1 周年記念
みんなで減らそう CO₂ フォーラム in 秋田

日時：平成 20 年 12 月 6 日(土)13:00～16:30
会場：秋田県庁正庁(秋田市山王)
内容：講演①「低炭素社会へのシナリオ～2050 年までに CO₂ を 70% 削減する方策～」講演②「住宅の省エネを進めるポイント」、家庭の省エネの取り組み紹介ほか
参加費：無料 定員：200 名(定員になり次第締切)
主催：秋田県、ストップ・ザ・温暖化あきた県民会議

問 申込：秋田県生活環境文化環境あきた創造課
TEL.018-860-1573

○能代市○

会計セミナー&個別相談会

日時：平成 20 年 12 月 5 日(金)
<セミナー>10:00～12:00
<個別相談>13:00～17:00※要予約で相談時間は原則 1 時間です。
会場：能代市中央公民館(能代市追分町)
主催：秋田県
問 申込：北部市民活動サポートセンター
TEL.0186-49-8553

○北秋田市○

元気な大館・北秋田地域づくり活動報告会

日時：平成 20 年 12 月 20 日(土)13:30～15:30
会場：北秋田市交流センター 1F 講堂
内容：○元気なふるさと秋田づくり顕彰事業認定証交付式
○認定団体等活動報告○意見交換会
入場料：無料

※参加ご希望の方で無料託児サービス利用ご希望の方は、
12 月 10 日(水)までにお申し込みください。
問 申込：秋田県北秋田地域振興局総務企画部地域企画課
企画・県民生活班 TEL.0186-62-1251

○大館市○

ふゆの特別おはなし会
谷さんからのおくりもの

日時：平成 20 年 12 月 21 日(日)10:30～11:30
会場：北部シルバーエリアコミュニティセンター多目的ホール(大館市十二所)
参加：無料(乳幼児及び小学生)
※大人対象のおはなし会の勉強会が 13:30～14:30 まであります。

問 来間の会(主催) TEL.090-2952-5405(市川)
※平成 20 年度子どもゆめ基金助成事業を受けています。

○能代市○

ドキュメンタリー映画
「1/4の奇跡～本当のことだから～」上映会
&入江富美子監督講演会

日時：平成 20 年 12 月 28 日(日)13:00～15:30
会場：能代キャッスルホテル平安閣 2F 万葉の間
参加費：1,000 円(当日 1,200 円)、高校生以下 500 円
問 ぐるーぷ あばんしえ(主催)
TEL.080-3321-3226 または TEL.0185-52-0442(平川)

募 集

求む☆若者パワー

秋田県では、若者の地域活動体験を支援しています。

体験者：県内在住及び県出身者の若者(18才以上 35才未満※高校生は不可)

募集人員：25人程度

体験期間：平成21年2月29日まで随時受付

体験分野：○子どもと触れ合いたい!一緒に活動したい○いろいろな人と話したい○障害福祉に興味がある○イベント大好き○自然を楽しみながら活動したい○ダンス大好き
※詳しくはお問い合わせください。

問 申込：秋田県生活環境文化部 地域活動支援室
TEL.018-860-1520

元気な大館・北秋田地域づくり活動顕彰事業 応募者大募集

地域の様々な問題の解決や、より良い地域づくりのため、積極的に活動を行っている団体・個人を広く募集します。

対象：大館市、北秋田市、上小阿仁村内の団体・個人で、該当地域において自主的・主体的な地域活動に継続的に取り組んでいる(平成20年3月31日以前から活動し、平成20年9月30日までに複数回行っている)こと。

応募方法：別紙推薦調書により北秋田地域振興局に申し込んでください。(自薦・他薦どちらも可)

応募締切：平成20年11月28日(金)必着

問 申込：北秋田地域振興局総務企画部地域企画課
企画・県民生活班 TEL.0186-62-1251
<http://www.pref.akita.lg.jp/hokusyui/>

各種イベントで「19.9.17 豪雨災害・復旧状況パネル」を展示しませんか!

大館・北秋田地域では、昨年(平成19年)9月の台風11号・前線による大雨のため甚大な被害が生じましたが、この災害を契機として再認識された日常の備えの重要性と、ボランティアによる復旧支援活動は、広く県民の皆さまに関心をもっていただきたいテーマです。現在、北秋田地域振興局では、当時の災害被害の状況やボランティアの皆さまの支援活動状況を「19.9.17 豪雨災害・復旧状況パネル」としてパネル化し、振興局イベント等で展示をすることにより広く

ご紹介をしております。

今後、この主旨に賛同いただける方が主催する各種イベントでの展示希望を募集しますので、ご希望のある方は是非ご相談ください。

問 北秋田地域振興局総務企画部地域企画課
企画・県民生活班 TEL.0186-62-1251

第6回オーライ!ニッポン大賞募集

募集対象：【オーライ!ニッポン大賞】都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受け入れ側の活動」などについて優れた貢献のある団体もしくは個人【オーライ!ニッポンライフスタイル賞】I.U.J ターンやニ地域居住等により農山漁村において、個人的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している個人

表彰：オーライ!ニッポン大賞グランプリ1件ほか

応募締切：平成20年12月5日(金)

問 (財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)地域活性化部

TEL.03-3548-2718 FAX.03-3276-6771

<http://www.ohrai.jp/award09/index.html>

SYD ボランティア奨励賞

ボランティア活動の分野において画期的な新機軸を拓いたり、優れた活動により著しい業績をあげたグループ・団体を顕彰することによって、青少年のボランティア精神の涵養と活動の活性化を図り、青少年の健全育成に資するもので、最高賞は文部科学大臣賞です。

テーマ：私(たち)の幸せの種まき《ふれあい、思いやり、よろこびを伴ったボランティア体験あるいは実践》

表彰：【文部科学大臣賞1点】クリスタルトロフィー(兼表彰状)副賞(活動奨励金20万円または「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ2名招待)ほか

応募資格：ボランティア体験あるいは実践をしている個人及び団体(学校、クラス、生徒会、ボランティア部、JRCなど)やPTA、子ども会、グループ等

応募締切：平成20年12月20日(土)

問 SYD(財団法人修養団)ボランティア奨励賞係

TEL.03-3405-5441 FAX.03-3405-5424

<http://www.syd.or.jp/volunteerprize.html>

第五回田舎懸賞論文

【田舎】と呼ばれる地域で若者の都市部への流出、一次産業の後継者の不足が起きているという現状と、その将来について若者が何を感じ、どう考えているのかという論文を募集するものです。

テーマ：田舎

応募資格：18才～30才まで。但し、大学生、大学院生 専門学校生は年令不問(4,000字程の小論文にまとめてCD-Rと印刷物を1部下記までお送りください)

表彰：最優秀賞1人10万円ほか

応募締切：平成20年1月31日(必着)

問 NPO 共育学舎 TEL/FAX 0735-47-2160

<http://kyouiku-gakusya.itrobo.net/>

助成金

秋田県赤い羽根共同募金

福祉、又は福祉に関連する保健・医療・教育の分野において地域福祉推進に大きな役割を果たすことが期待できる事業に対し助成します。

助成対象：赤い羽根共同募金の公益性の原則に基づき、秋田県内に活動する住民団体、NPO、ボランティア団体等
助成金額：1団体1事業あたり上限70万円(千円未満切り捨て)対象経費の4/5以内を原則とする。

応募締切：平成20年12月12日(金)

問 社会福祉法人 秋田県共同募金会

TEL.018-864-2821 FAX.018-895-7513

芸術文化助成

○美術、既存美術館の開催する展覧会のうち、特に教育的色彩を重視するもの。その他美術教育に係わる催事○音楽・オペラ等、オーケストラ、室内楽、独奏、合唱等の活動で教育プログラムを重視した催事への助成。音楽家の海外留学又は研修への助成、音楽普及と向上を目的とした国際的活動への助成○芸術文化の国際交流を目的とする活動や催事開催への助成するものです。

助成資格：助成対象となる活動を行う団体及び個人

応募締切：平成20年12月25日(木)(必着)

問 財団法人 野村国際文化財団

TEL.03-3271-2330 FAX.03-3281-8522

<http://www.nomuraholdings.com/jp/bunka-zaidan/support/index.html>

2009年度防災教育チャレンジプラン

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートします。

助成対象：防災教育を一層充実させたいと考えている保育園・幼稚園・学校、教育委員会、地域団体(NPO、行政機関等)

助成金額：1件あたり上限30万円

応募締切：平成21年1月23日(金)(当日消印有効)

問 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

TEL.03-6412-2505 FAX.03-6412-2593

<http://www.bosai-study.net/bosyu2009/info.html>

平成21年度(第8回)環境NPO助成

「環境と経済との調和」及び「環境と科学技術との調和」に資する活動に対して助成します。

助成対象：国内のNPO法人、又は3年以上の実践活動歴を有する国内の任意団体。(活動暦が3年未満の任意団体についても、優れた提案については審査委員会の判断で助成対象と致します。)

助成金額：1件当たり原則として150万円を限度とし、数件の団体を選定し助成する。

応募締切：平成21年1月23日(金)(当日消印有効)

問 (財)日立環境財団

TEL.03-3257-0851 FAX.03-3257-0854

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyotopics/topics39.html>

第10回社会貢献基金助成

この基金は、地域の種々の災害の救済、社会福祉事業、環境保全事業、国際協力など社会貢献活動を行う各種団体等への助成、並びに社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に対する助成を行います。

助成金額：総額およそ1,000万円。1件当たりの上限200万円。研究助成事業においては、上限100万円

助成団体：非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループも対象となります。)又は、大学、研究機関等

応募締切：平成21年2月末日(必着)

問 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

社会貢献基金 運営事務局

TEL.03-3433-4415 FAX.03-3435-0880

<http://www.zengokyo.or.jp/social/promotion/no02.html>

CSR セミナーが開催されました

CSR セミナー「地元企業のCSRを考える～CSRは何のため?～」が10月25日に遊学舎で開催されました。CSR (Corporate Social Responsibility) とは一般的に『企業の社会的責任』と訳されます。このセミナーでは、『企業が社会的責任を果たす』とはどういうことなのか。企業が地域社会に支持されるため、また、よりよい地域づくりのために、企業はNPO や市民とどう係わることができるのか。県内の事例を聞きながら、秋田のCSRを考えました。

基調講演では講師の武内伸文氏(SiNG 代表)が、CSRの捉え方を近江商人の経営理念に由来する「三方よし」の理念や大手企業の経営理念、欧米と日本の比較などの例を挙げ

ながら、社会を向いた経営が求められていること、企業の立ち位置や進むべき道の見直して立ち返ることが必要とお話されました。

事例発表は、(株)伊徳、(株)むつみワールド、(有)かがちゅうスポーツの3企業がそれぞれで取り組んでいる社会貢献活動を紹介してくださいました。

パネルディスカッションでも、「理想的な地域社会がどんなもので何が大切なのか」を企業が存続するために不可欠な3つの要素「経済・社会・環境」やリソースである「人・金・モノ・情報」から考え、「地元だからできること、できないこと」「企業・市民・NPO との連携」について話し合われました。会場からはある地域の例を挙げて「住んでいる人が置き去りにになっているような街づくりはどんなものか」、「夢をもって次世代のため



に一生懸命になること、心豊かにすることを目指してほしい」と意見が出されました。パネリスト(事例発表者)からは、あいさつの仕方を例に「まずは一歩出ましょう!」と心の込められた言葉がだされました。

パネルディスカッションの様子。写真左から、講師の武内伸文氏(SiNG 代表)、村岡邦男氏(株)伊徳 管理本部総務部部長、佐々木克巳氏(株)むつみワールド 代表取締役社長、加賀忠雄氏(有)かがちゅうスポーツ 取締役会長)



イベント・活動情報など掲載記事を募集しています。お気軽にご連絡ください。



市民活動情報ネット

秋田県の市民活動団体が登録されています。関連情報も満載です。ぜひ、ご活用ください!

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>

〈編集後記〉表紙でご紹介した取り組みのように地域と学校をつなぐ試みは、秋田看護福祉大学「第4回逢星祭」でも行われました。また、各地で学校内に地域の人で構成された会を組織し、学校・家庭・地域が一体となった子育てが進められています。

北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて、特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。

北部市民活動サポートセンター(北部男女共同参画センター内)

活動団体を応援!

北部男女共同参画センターでは、打ち合わせや会議ができます。コピーができます。パソコンが使えます。貸し出し図書があります。

※利用の際、団体登録が必要になる場合があります。また、利用内容によって料金がかかりますので、詳しくはお問い合わせください。

〒017-0841
秋田県大館市字大町57
TEL 0186-49-8553
FAX 0186-49-8589
<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>

